

## 専門医から学ぶ 冬の漢方診療について - 冷え 不眠 かせ 身体の痛み -

漢方が得意な領域について  
沢山話していただきました。



2月10日(日)13時半～(方南会館)講師/和泉4丁目 曙クリニック院長 田中博幸先生から専門的なお話を、解り易く丁寧に話していただきました。満員の会場の参加された方からは、「なかなか聞けないお話で、とても参考になりました。」という声をたくさんいただきました。一部ですが抜粋してお届け致します。

### ●漢方診療の特徴

・漢方は同じ診断名であっても体質(虚証・実証など)を詳細に診て使い分ける。  
 例えば西洋医学では、血圧の薬でも頭痛の薬でも、太っている人も痩せた人も高齢者や若年者もミリ数ぐらいいは変えるが同じ薬を使う。漢方はその人の体質や問診によって飲む漢方薬を変える。問診を丁寧にする。

### ○治療学として非常に深い。

・舌からは多くの情報が得られる。(舌の見方を教えて頂きました。)・脈によっても使う薬が変わってくる。(脈の見方も教えて頂きました。)・お腹は診察の仕方が難しく、腹診まできちんとしてくれる医師はかなり経験があり熟練した医師である。漢方は診断が重要なので腹診まできちんとしてくれる医師に受診するのが望ましい。

・日本の医療制度では、漢方薬を処方する医師も西洋医学の医師免許を持っていないてはならない。そこが中国や韓国とは違う。

### ●冷えについて

「冷え」と「寒気」は違う。

寒気にも2種ある。①悪寒(おかん)布団をかぶって寝ていてもぞくぞくする強い寒気 ②悪風(おふう)温かくしていれば異常を感じず、着物を脱いだり風の吹く所に出た時にだけ寒気を感じる。

冷えにも、厥冷(けつれい)と厥寒(けっかん)がある。①厥冷;術者が他覚的に手足の冷えを認めるが患者自身は冷えを自覚しないもの。②厥寒;患者自らが手足の寒冷を訴えるもの  
 厥冷の方が程度が重い

### 冷えに対する漢方治療の例 冷えの部位や随伴症状により分けて考える

- ① 手足の冷え優位型
- ② 全身冷え型
- ③ 体感異常型

漢方ではこのように詳細に診断し薬を出す。冷えや寒気は西洋医学では病名がつかなく相手にされない。冷え性は漢方の独壇場。冷房病や夏ばてなども西洋医学には病名がなく、まったく相手にされない領域。

★漢方薬は温服(お湯に溶かして飲む)で飲まなければ効かない。